



小松ウォール工業株式会社 | 東証プライム 7949

2026年3月期第2四半期 決算補足資料

2025年10月30日

■ 2026年3月期2Q 決算概要	3
■ 2026年3月期 業績予想	8

2026年3月期2Q実績

- オフィス向けが引き続き好調、学校や文化施設向けも増収で売上高は4.9%増収
- 品目別では可動間仕切やトイレブースはオフィス向けが好調、ロー間仕切も回復、一方で移動間仕切は宴会場など宿泊施設向けが減少
- 高付加価値製品の販売増加により、売上総利益率も1.3ポイント上昇、人材投資等の販管費増加を吸収し、営業利益は22.7%増益
- 受注残は全品目増加、学校、文化施設向けが好調、宿泊施設向けも回復

2026年3月期予想

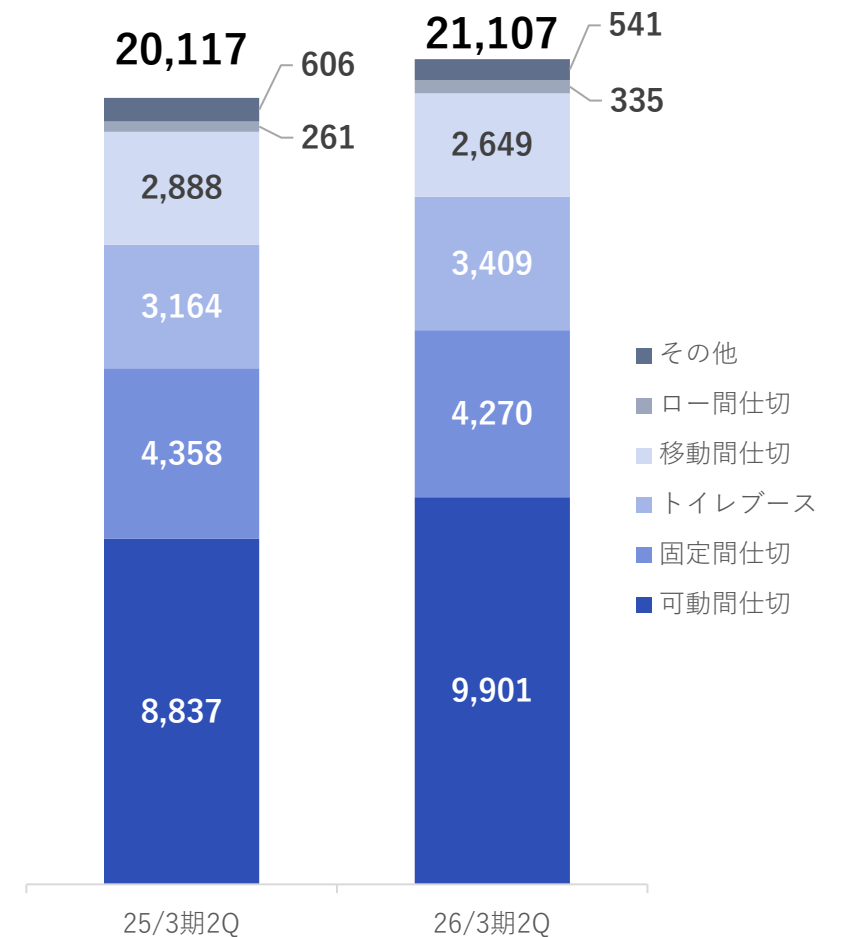
- 通期は期初予想継続。売上高は4.2%増の465億円、増収効果や高付加価値製品の販売増加による売上総利益率上昇により、営業利益は11.7%増の40.6億円を予想
- オフィスのリニューアル需要が引き続き好調で、可動間仕切に加え、トイレブースも増収に貢献

株主還元

- 期初に配当方針を純資産配当率（DOE）3%から6%水準に変更
- 2026年3月期の配当も期初計画を継続し、前期比倍増の130円を予想

売上高

（百万円）



2026年3月期第2四半期 決算概要説明

2026年3月期2Q 決算概要

- オフィス向けが引き続き好調、学校や文化施設向けも増収となり、売上高は4.9%増収、ほぼ期初計画通りに着地
- 高付加価値製品の販売増加により売上総利益率も1.3ポイント上昇、人材投資等の販管費増加を吸収し、営業利益は22.7%増益
- 2025年7-9月期も、オフィス向けの好調等により売上高は5.2%増収、営業利益は18.6%増益と1Qに続き好調継続

単位：百万円	2024年3月期2Q		2025年3月期2Q		2026年3月期2Q期初予想 (25年4月時点)		2026年3月期2Q実績		前年同期比 増減率	予想比 増減率
売上高	19,691	100%	20,117	100%	21,000	100%	21,107	100%	4.9%	0.5%
売上総利益	6,550	33.3%	6,820	33.9%	7,110	33.9%	7,437	35.2%	9.0%	4.6%
営業利益	1,300	6.6%	971	4.8%	1,050	5.0%	1,192	5.6%	22.7%	13.5%
経常利益	1,373	7.0%	1,048	5.2%	1,100	5.2%	1,220	5.8%	16.4%	10.9%
当期純利益	950	4.8%	738	3.7%	750	3.6%	817	3.9%	10.8%	9.0%
1株当たり 当期純利益	51円09銭*		39円56銭*		41円20銭		46円51銭		17.6%	12.9%
1株当たり 配当金	27円50銭*		30円00銭*		65円00銭		65円00銭		116.7%	—

* 2024年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割。1株当たり当期純利益と1株当たり配当金の算出は分割後の株数で遡及修正

品目別売上高



- 可動間仕切やトイレブースはオフィス向けが好調、ロー間仕切も回復、一方で移動間仕切は宴会場など宿泊施設向けが減少
- 受注残は全品目増加、学校、文化施設向けが好調、宿泊施設向けも回復。品目別では、固定間仕切、移動間仕切は10%前後の増加

単位：百万円	2025年3月期2Q	2026年3月期2Q					
	実績	実績	前年同期比 増減率	受注高	前年同期比 増減率	受注残高	前年同期比 増減率
売上高	20,117	21,107	4.9%	25,185	3.0%	22,975	9.3%
└ 可動間仕切	8,837	9,901	12.0%	10,853	1.9%	6,235	6.3%
└ 固定間仕切	4,358	4,270	△2.0%	5,301	△0.4%	6,646	10.9%
└ トイレブース	3,164	3,409	7.7%	4,768	7.3%	4,803	8.7%
└ 移動間仕切	2,888	2,649	△8.3%	3,265	3.0%	4,780	10.2%
└ ロー間仕切	261	335	28.1%	383	29.4%	134	31.2%
└ その他	606	541	△10.7%	613	6.2%	374	20.9%

貸借対照表

■ 新工場建設に向けた投資により有形固定資産が増加、一方で現預金や売上債権等が減少し、総資産は2025年3月期末と同水準
ROE上昇に向けて、増配などにより純資産の増加を約3億円に抑制したが、自己資本比率は81.8%と引き続き高い財務安全性を維持

単位：百万円	2024年3月期末	2025年3月期末	2026年3月期2Q末	前期末差
流動資産	32,539	31,322	27,845	△3,477
現預金	17,640	16,714	15,108	△1,606
売上債権・契約資産	13,615	13,231	11,155	△2,078
棚卸資産	1,123	1,117	1,337	220
固定資産	14,915	15,433	18,676	3,243
有形固定資産	11,767	12,260	15,462	3,202
無形固定資産	385	415	436	21
投資その他の資産	2,763	2,757	2,777	20
総資産	47,455	46,756	46,522	△234
負債	9,388	8,965	8,444	△521
買掛金	2,350	2,323	2,076	△247
有利子負債	0	0	0	0
純資産	38,067	37,790	38,077	287
負債純資産合計	47,455	46,756	46,522	△234

キャッシュ・フロー計算書



- 利益計上や売上債権の減少から営業CFは25億円のプラスとなった、一方で新工場稼働に伴う設備投資により投資CFは25億円のマイナス
- 配当金を6億円支払ったものの、期末現預金は130億円と前年同期並みを維持

単位：百万円	2024年3月期2Q	2025年3月期2Q	2026年3月期2Q	前年同期差
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,424	1,677	2,576	899
税引前当期純利益	1,373	1,100	1,220	120
減価償却費	522	564	586	22
売上債権の増減額（△は増加）	1,633	2,388	2,079	△309
棚卸資産の増減額（△は増加）	△46	△90	△219	△129
仕入債務の増減額（△は減少）	△291	△392	△247	145
投資活動によるキャッシュ・フロー	△637	△1,156	△2,563	△1,407
有形固定資産の取得による支出	△611	△639	△3,475	△2,836
定期預金の預入・払戻による支出入	0	△500	1,000	1,500
財務活動によるキャッシュ・フロー	△528	△669	△632	37
配当金の支払額	△520	△661	△625	36
現金及び現金同等物の期末残高	12,734	13,373	13,029	△344
フリーキャッシュ・フロー	1,787	521	13	△508

2026年3月期第2四半期 決算概要説明

2026年3月期 業績予想

- 通期は期初予想継続。上期は計画を上回ったが、可動間仕切などフル生産が続いており、出荷がずれ込むリスクなどを考慮した慎重な予想
- オフィスのリニューアル需要が引き続き好調で、可動間仕切に加え、トイレブースも増収に貢献。売上高は4.2%増収、増収効果や高付加価値製品の販売増加による売上総利益率上昇により、営業利益は11.7%増益を予想
- 期初に配当方針を純資産配当率（DOE）3%から6%水準に変更、2026年3月期の配当も期初計画を継続し、前期比倍増の130円を予想

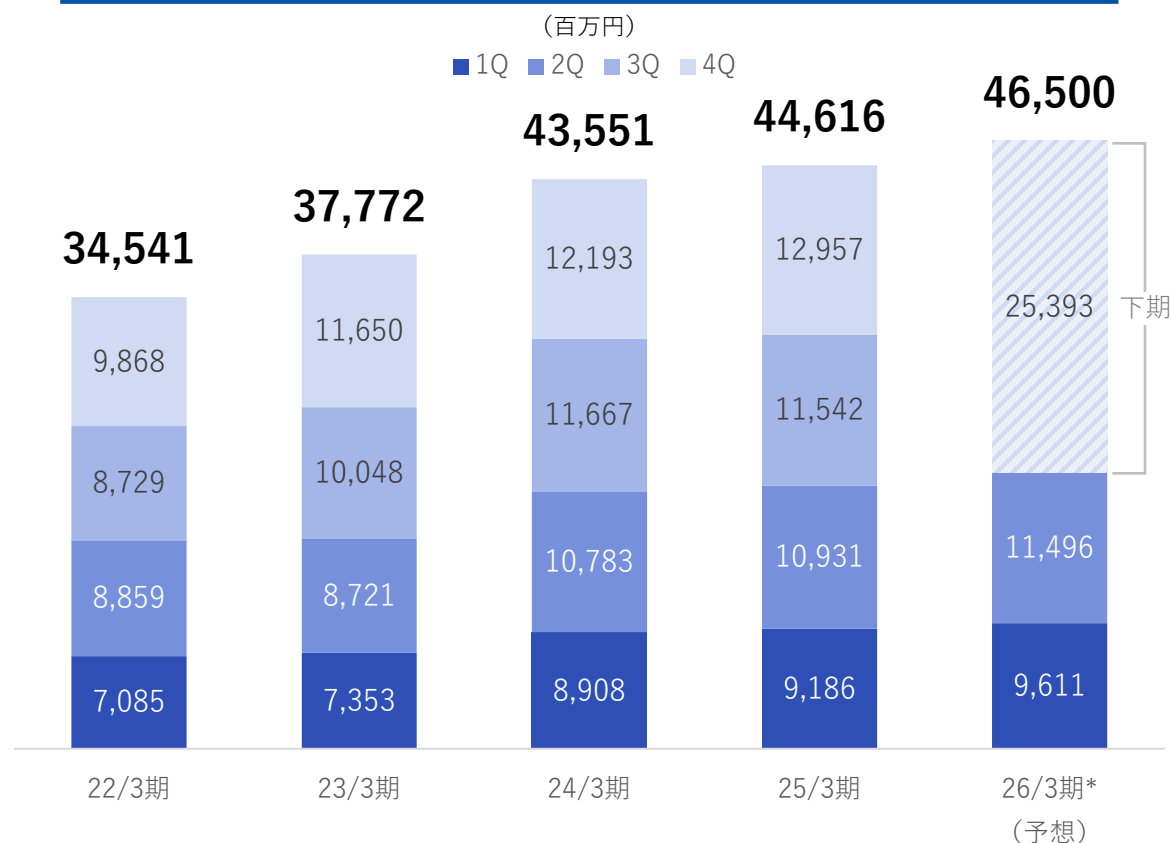
単位：百万円			2024年3月期		2025年3月期		2026年3月期 通期予想		前期比 増減率
売	上	高	43,551	100%	44,616	100%	46,500	100%	4.2%
営	業	利 益	3,640	8.4%	3,635	8.1%	4,060	8.7%	11.7%
経	常	利 益	3,732	8.6%	3,756	8.4%	4,130	8.9%	10.0%
当	期	純 利 益	2,775	6.4%	2,650	5.9%	2,930	6.3%	10.5%
1 当	株 期	当 純 利 益	149円04銭*		145円64銭*		160円97銭		10.5%
1 配	株	当 当 金	62円50銭*		65円00銭*		130円00銭		100.0%

* 2024年10月1日付で1株につき2株の割合で株式分割。1株当たり当期純利益と1株当たり配当金の算出は分割後の株数で遡及修正

四半期業績推移

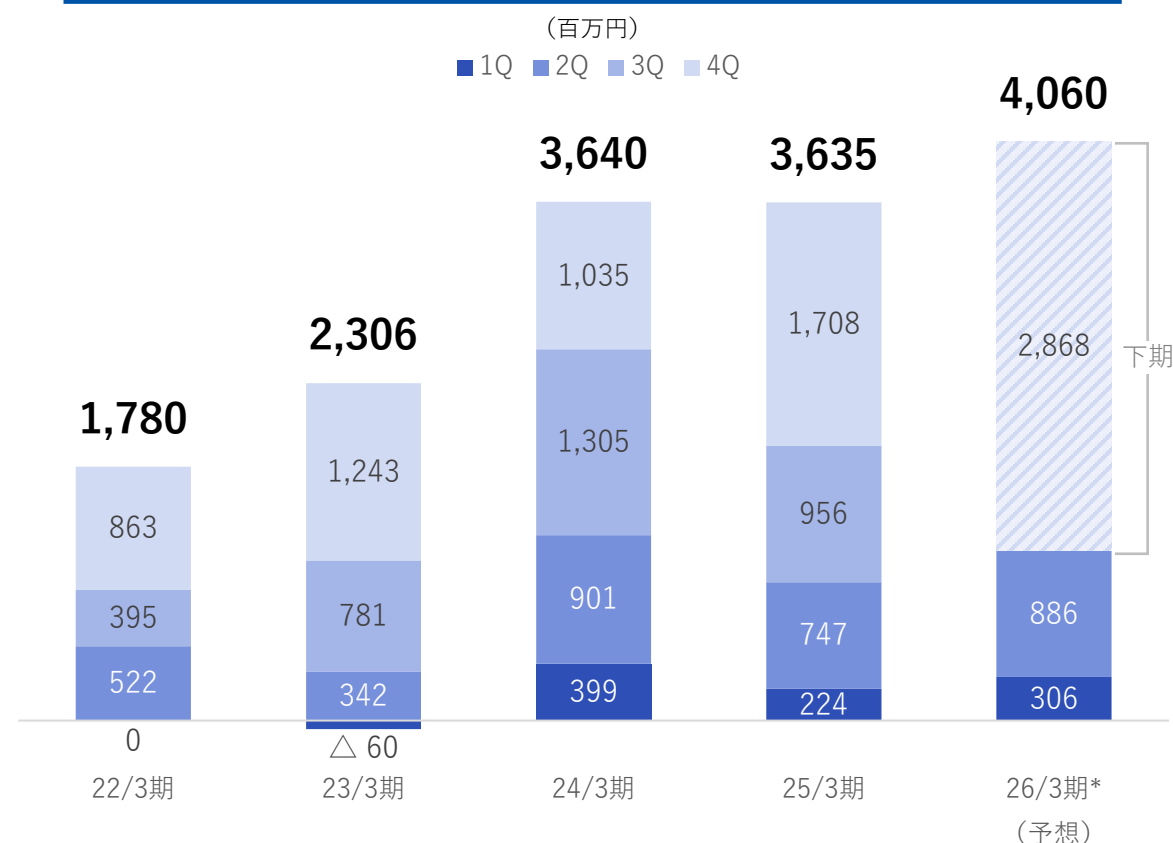
- 2026年3月期7-9月の売上高はオフィス向けの好調などから5.2%増収、増収や高付加価値製品の増加等により営業利益は18.6%増益
- 2026年3月期もオフィス向けの好調が続くことを主因に増収を予想、売上総利益率も上昇により人件費の増加等を吸収し営業増益を予想

四半期売上高



* 26/3期下期は当社業績予想値

四半期営業利益

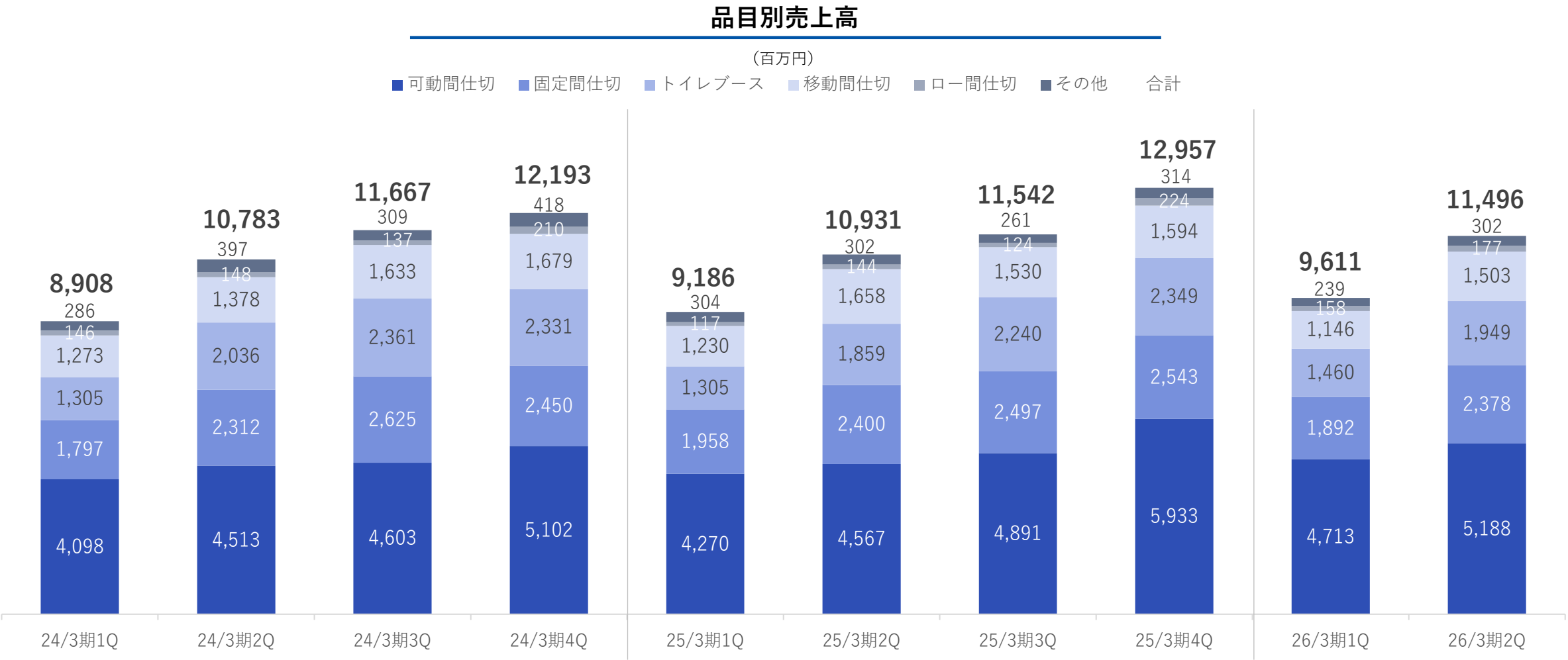


* 26/3期下期は当社業績予想値

四半期品目別売上高推移



■ 2026年3月期7-9月はオフィス向け中心に引き続き可動間仕切が好調に推移、トイレブース、ロー間仕切も堅調



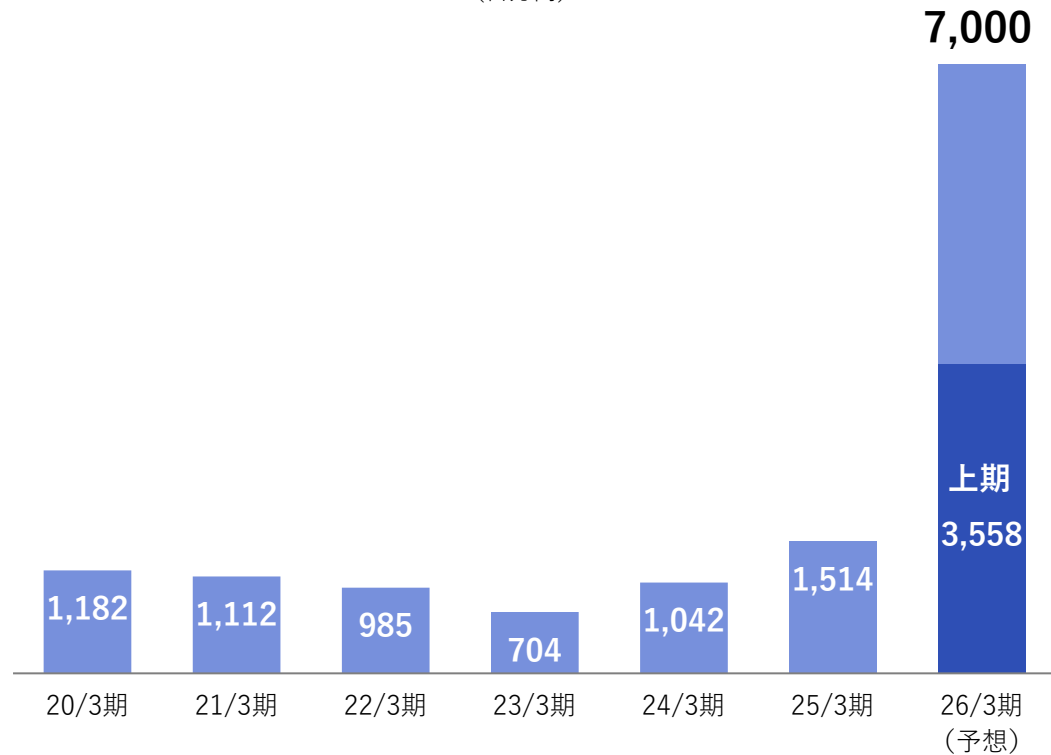
設備投資、減価償却費

■ 2026年3月期は加賀工場2号棟建設、名古屋ショールームへの投資等で70億円の設備投資を計画

■ 上期は35億円の設備投資を実施。2号棟着工に伴う投資に25億円、既存工場の機械設備等に4億円、名古屋ショールーム関連で3億円等

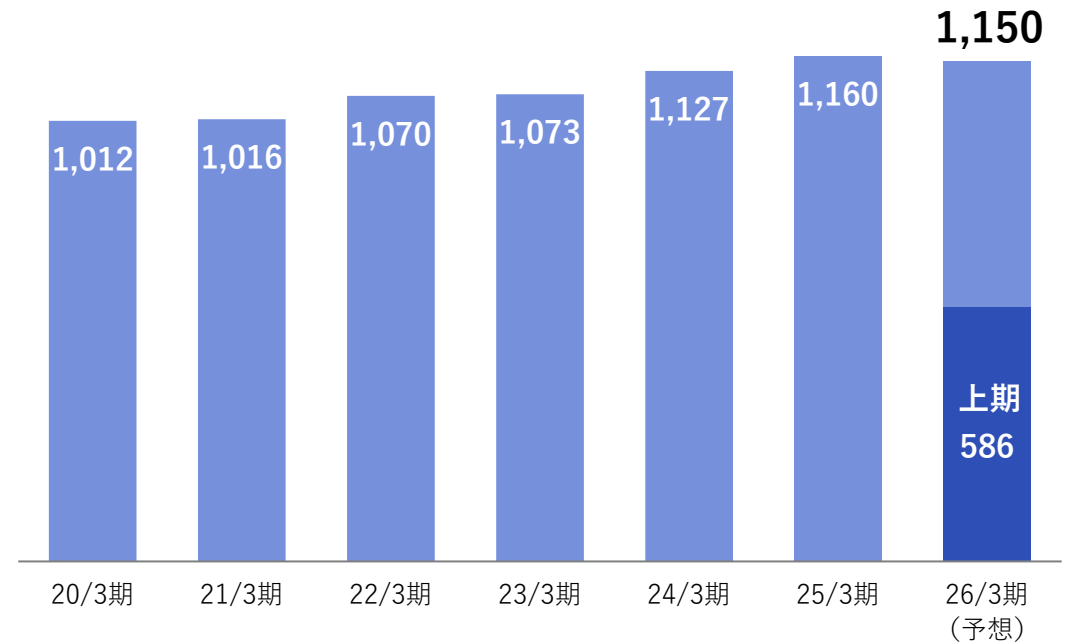
設備投資

(百万円)



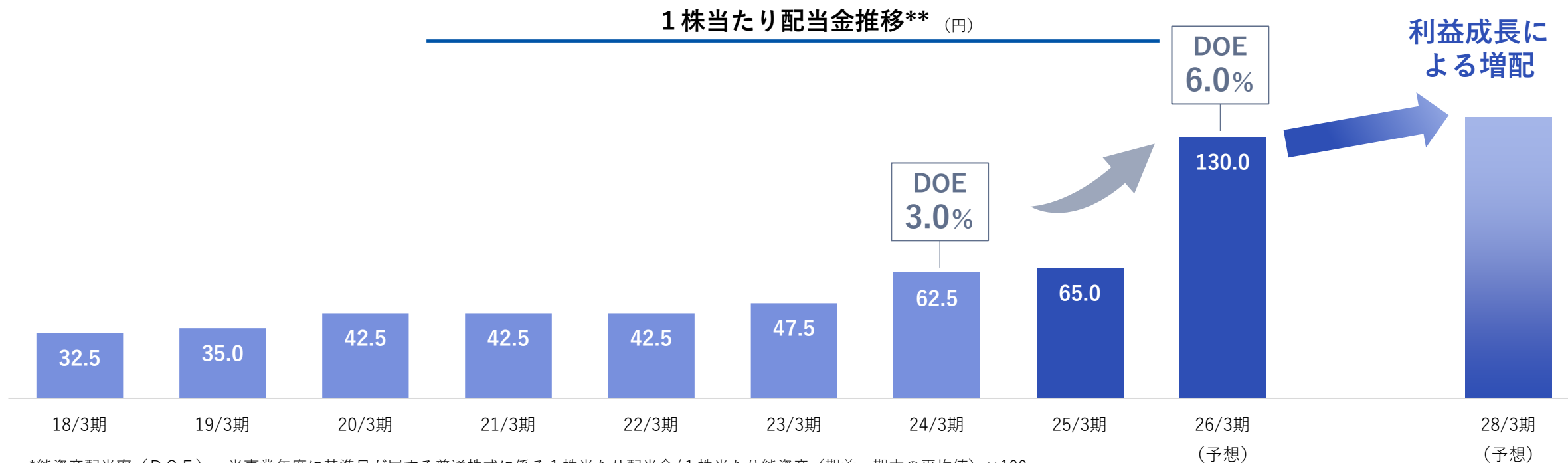
減価償却費

(百万円)



- 2026年3月期から株主還元方針を変更し、純資産配当率（DOE）6%を目安とした配当へ引き上げ。なお、23年4月にはDOE3.0%下限に変更
- 上記方針に基づき、2026年3月期は前期比倍増の130円への増配を計画

純資産配当率*（DOE）6%を目安とした配当を実施
持続的な成長も実現し、配当水準の安定的向上を目指す



*純資産配当率（DOE）＝当事業年度に基準日が属する普通株式に係る1株当たり配当金/1株当たり純資産（期首・期末の平均値）×100

**2024年10月1日付で1：2の株式分割を実施。過年度の配当金は株式分割後の株数での配当金に遡及修正



小松ウォール工業株式会社 | 東証プライム 7949

お問合せ先

小松ウォール工業株式会社
社長室

TEL 0761-21-3131(代表)

https://www.komatsuwall.co.jp/form/form.php?form_id=201

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。